

紙面から

教育随想

「科学研究と社会」
 岡崎国立共同研究機構
 分子科学研究所長
 茅 幸二氏

羅針盤

体育科における不易と流行
 保健体育科指導員 海藤 茂実

この人に聞く

菖蒲まつり実行委員長
 宇野 五郎氏

特集

風の音を感じてー岡崎飛行クラブ

岡崎市の教育予算

ふれあい

学級代表に注目
 六名小学校 川口 克也

師弟同行

前甲山中学校長 深津 浩
 矢作中学校 鈴木 武

フォト・ヒストリー岡崎の教育
 ねずみグループ(昭和四十六年)



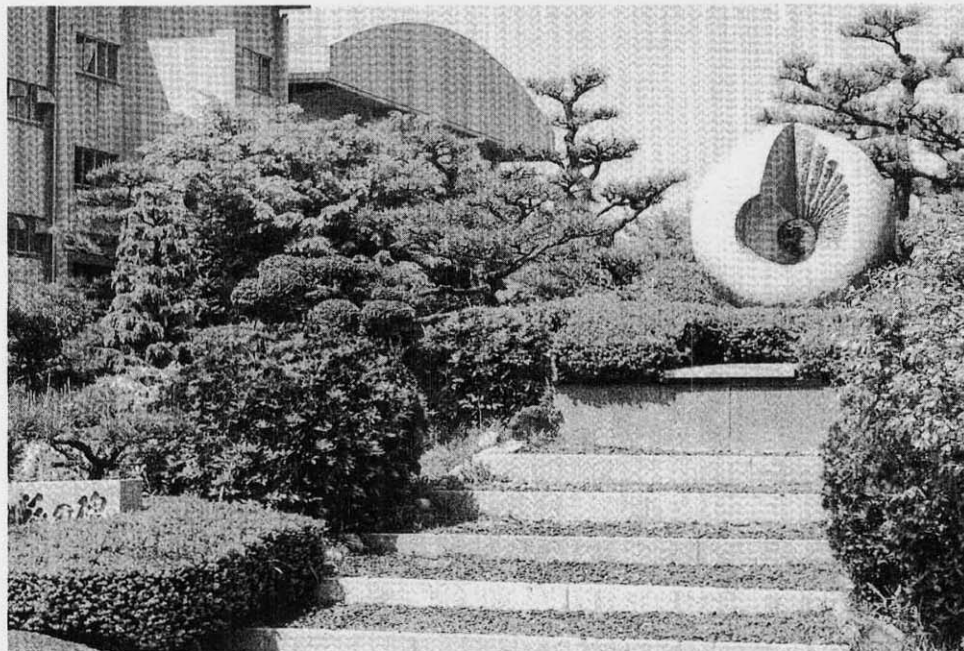
6月号

平成11年6月1日

発行/編集
 岡崎市教育委員会



開校以来52年間
 続けられている
 伊賀川清掃奉仕活動



今月の学校紹介
 ～葵中学校～

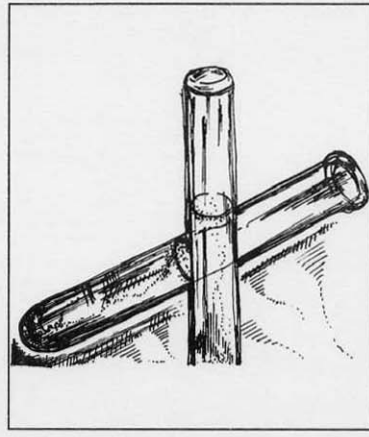
生活信条

あいさつ
 おもいやり
 いまが大切

岡崎に着任してまだ一か月あまり、何時の間にか新緑も過ぎ、汗ばむほどの季節になっていく。市役所に着任挨拶に伺ってお話をしていく間に、ここ岡崎市が本多光太郎先生の生誕の地であることを知った。

本多先生は磁性研究の開拓者であり、理工学の研究者で本多光太郎という名前を知らない者はない、わが国を代表する科学の先達である。

私の父は、東北大学において本多



先生に師事した研究者であった。父は本多先生を実の父親以上に敬愛し、親子のような間柄を保っていた。私も子供の頃から、父に四六時中本多先生の話が聞かされ、ひよっとすると本多先生が私の祖父ではないかと錯覚するほどであった。それ程に本多先生の話が聞かされた私であるが、考えてみると父がどのよう先生に叱られたかなどの日常の話はほとんど記憶にない。いつも、本多先

生が父を含む弟子たちの行く末を考えておられたこと、そして先生の磁性研究への傾倒ぶり、それだけであったような気がする。

私の母方の祖父は天文学者であった。祖父に関して記憶しているのは、やたらに麻雀が好きであったこと、あとは人伝であるが、研究一途だったとのことである。

そのような明治の科学者から数代経た我々は、独立行政法人化問題、

— 教育随想 —

科学研究と社会



機構長
分子科学研究所
共同研究
国立岡崎

二 幸 茅

環境ホルモンなど、世間の荒波を実感する場に置かれ、それらとの対応が大きな重荷となっている現状である。昔は学問の成果が、世間一般に影響を与えるまでにはかなりの時間が必要であったし、学問することそのものを文化の一端として尊ぶ風潮があったのだろう。今日では、科学技術の進歩が直ちに実社会に反映され、その可否が世間の目から判断できる状況にあると、考えられている。

化学の分野でいえば、効率よく人工肥料、抗生物質などを生産し、それらによる食糧、健康の維持は人類の長寿命化と人口増加を促進した。その反面、水俣の有機水銀中毒、サリドマイドなどの薬害など予期せぬ問題を引き起こしているのも事実である。終戦後の疫病蔓延を救ったDDTなどは、その当時は救世主で、その後薬害の典型として扱われ、一つの物質で善悪両面を端的に示した例であろう。

二十一世紀には、効率だけの物質生産、それによる物質依存の豊かな社会を百億に達する人類に期待するのは所詮無理である。これからの科学研究は、自然と共存しつつ豊かに暮らす定性性のある概念を与えるものとして、ますます社会とも関わりをもつてくるであろう。

分子科学は物質の基本である分子とその集合を扱う学問である。昨今の目覚ましい研究の進歩によって、一つの分子から無限個の集団ともいえる液体、固体、さらには生命体の性質まで制御が可能になってきた今日、分子の研究に基づいた新しい物質観が誕生し、新しい豊かさへの戦略基地としての分子科学研究所の発展を期待したい。

(かや こうじ)



体育科における不易と流行

保健体育科指導員

海藤 茂 実

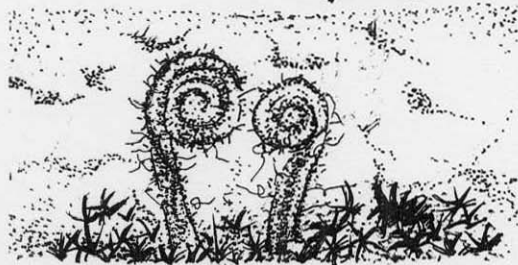
F 中学校のN先生の体育指導は、確かな実践に裏づけられた指導理論で評判である。その先生の授業を初めて参観する機会を得た。

若干の緊張感が漂う中、いよいよ準備運動が始まった。教師による一斉指導であったが、見ている私は次第に胸が熱くなるのを感じた。それは、ごく当たり前の準備運動が、実際にしっかりと行われていることに感動したためである。

しかし、最近では児童生徒の自主性を重んじようと、グループごとの活動に任せる指導者が多い。一つ一つの運動が目的に合致していない雑な動きも目立つし、それを見過ごす指導者が多いように見受けられる。生徒に任せて出来ないならば、教師による一斉指導は当然行わなければならない。さて、主運動であるマット運動は

ふるさとシリーズ

この人に聞く



菖蒲まつり実行委員長

宇野 五郎 氏

毎年六月に、東公園で菖蒲まつりがおよそ三週間開催される。その期間中、市内や市外から花菖蒲を鑑賞に来る人たちの安全を考え、自主的に菖蒲園の夜間パトロールをしているのが菖蒲まつり実行委員会である。そのメンバーは根石学区十八町の総代を中心に、社教委員会・子供会等の役員などで構成されている。実行委員長である宇野五郎さんにお話を伺った。

「実行委員会として菖蒲園の夜間パトロールを始めて、今年で十六年目になります。それ以前も、根石

学区の総代さんたちの話し合いで菖蒲園をパトロールしていただき。私が総代会長を引き受けたのをきっかけに、パトロールを組織化してしまおうと、菖蒲まつり実行委員会を作ったのです。実行委員会ではパトロールをするようになってからは、酔っ払いの騒動や花が切り取られるというようなことは一切なくなりました。」

菖蒲園のパトロールは、午後七時から九時まで、一日十二、三名で行っている。実行委員会の活動としては、このほかに、菖蒲まつり期間中に開催するお茶会や「ふれあい芸能まつり」の運営がある。宇野さんは、これまでのご苦労について次のように語られた。

「とにかく、活動のための資金作りがづらい。学区からお金をもらっていないために、企業に寄付をお願いに行かなければなりません。寄付をいただくために、三回から五回は伺わなければなりません。市からも補助は出ますが、それだけではとても足りません。」

活動のための資金作りの問題を解決して、次の方へ実行委員長のいすを譲るのが、宇野さんの今後の最大の課題だそうである。

苦しいことばかりだと言われながらも、最後にしみじみと話された。「根石学区の人たちの協力が、とてもうれしい。やるぞと言うと、よくまとまってくれます。自分のように途中から入ってきた人間にも、よく協力してくれます。本当にうれしいことです。」

氏 名 宇野 五郎
生年月日 大正十二年一月九日
住 所 根石町二八



どうであろうか。倒立前転、前方倒立回転跳び等、生徒同士による確かな補助や助言あり、また教師自身による示範も織り混ぜ、テンポよく授業は繰り広げられた。そんな中で、体育館の一角に自らの技を振り返らせるための九分割映像のビデオが用意されていた。それは、個々の技の出来栄を瞬時に映し出し、数名の班員で互いに分析し合える仕組みである。活動的な場面から、一転して画面に食い入る生徒の真剣なまなざしは、まさに「自ら学ぶ」姿そのものと言える。教育機器や学習カードを有効に使った課題解決の場（流行）と、教師主導のもとに、全員に基礎基本を徹底させる場（不易）との見事な使い分けをしたN先生の組み立てに感心するばかりであった。

新指導要領では、「生きる力」や「体ほぐし」といった言葉がいくつか並ぶが、体育科教育の本質である「動き」だけは決しておろそかにしてはならない。N先生の授業を通して、改めてそう思う。

【推薦する専門書】

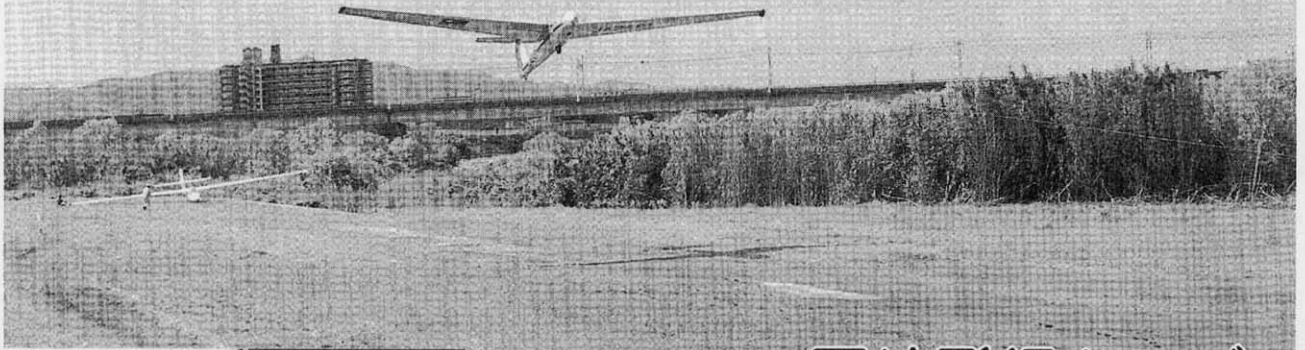
『体育科教育—別冊シリーズ—』

(全十六巻) 大修館書店

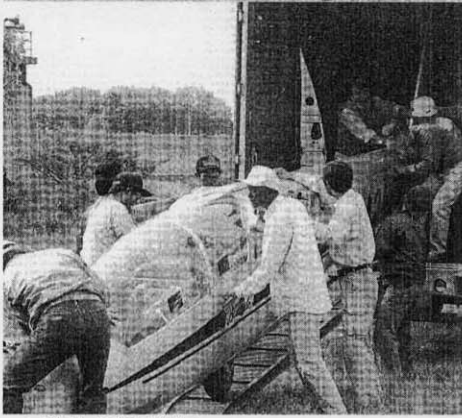
『体育の授業分析』

大修館書店

風の音を感じて



岡崎飛行クラブ



▲機体の運び出し



▲テスト飛行直前、緊張の瞬間



▲▼主翼と水平尾翼の組み立て



▲離陸直前のグライダー



「教官。機体点検、終わりました。」

八時前から行われた機体整備が終了したのは、九時半過ぎであった。それと並行して進められていた滑走場の整備、えい航索（ワイヤー）の設置・点検、ウインチとの連結などの地上作業も終わり、いよいよテスト飛行の時間となった。今回は、そのテスト飛行に搭乗させられることになった。

グライダーは滑り出した。グライダーとウインチを結ぶ索の長さはおよそ八百メートル。「離陸までにどれほどの距離を要するのだろうか」と思うやいなや、グライダーはわずか十数メートルで離陸し、心地よいG（重力）を感じながら、一気に三百メートルまで上昇した。

初めて味わうコックピットの中、そこは言い知れぬ緊張感と期待感で満ちていた。途中、索のはずれる音にビクとはしたが、平静を装い「今、はずれたんですよね」と精一杯の意地を見せた。空が上がった機の中は、予想していたよりもはるかに静かで、聞こえるのは機体が切る風の音だけだった。わずかな時間ではあったが、岡崎の空を満喫し、機は静かに滑走場に舞い降りた。

グライダー飛行を体験することで、数々の感動を覚え、そのすばらしさを味わうことができた。子供たちにも、実りある体験を通して多くのことを学びとらせていきたい。

岡崎飛行クラブ

- ・ 活動場所は八帖町矢作川河川敷にある岡崎滑空場
- ・ 外国製の単座機と複座機を各二機ずつ所有
- ・ 活動日は毎週日曜日
- ・ 県内唯一のグライダークラブ
- ・ メンバーの職業、年齢は幅広く、他市他県からも参加
- ・ 若い年齢層のメンバーを募集中（中学生も可）
- ・ 年に一度、市民を対象に体験飛行会を実施



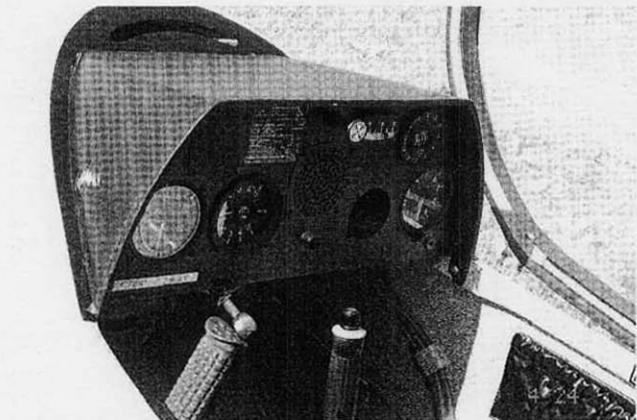
▲滑走場の整備



▲えい航索の設置・点検



▲時速100kmでグライダーをえい航するウインチ

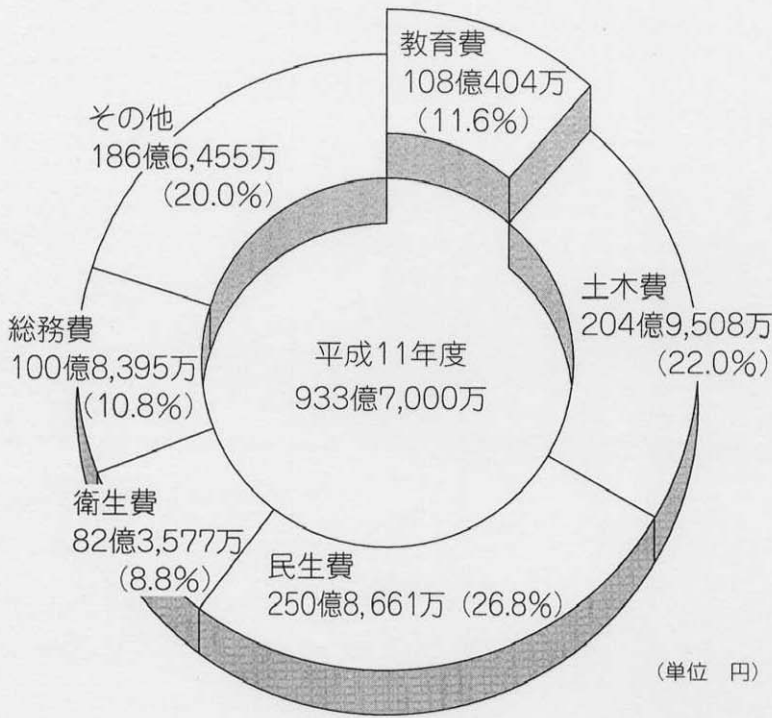


▲速度計・高度計が配置されたコックピット



▲上空300mから眺めた岡崎の街

〈一般会計予算〉



夢と希望に満ちた
香り高い文化都市をめざして

岡崎市の教育予算

◆本年度の特色◆

造成	〃	校舎耐震補強	校舎増改築	小中学校施設の設備
中学校	中学校	小学校	小学校	
一校	一校	一校	一校	



▲クラブハウス新設 (新香山中学校)

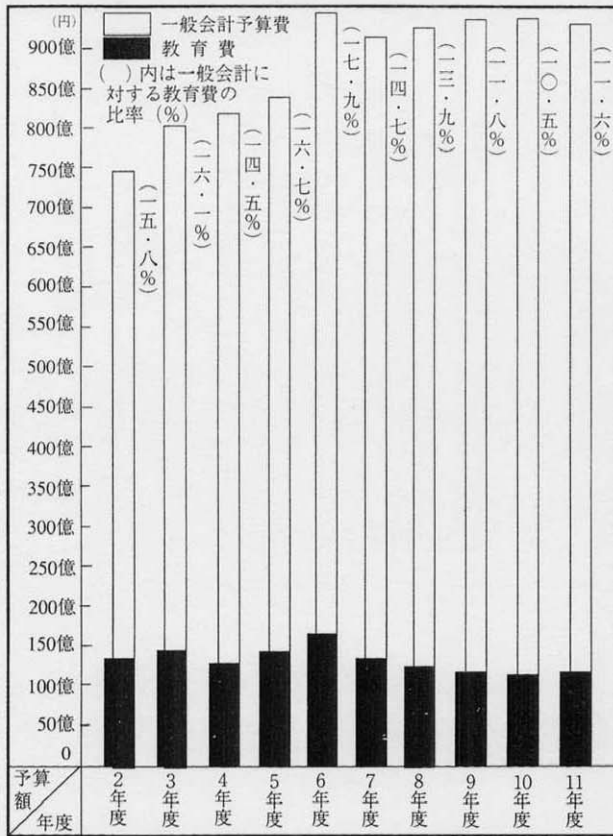


▲パソコン機器の更新 (全中学校)

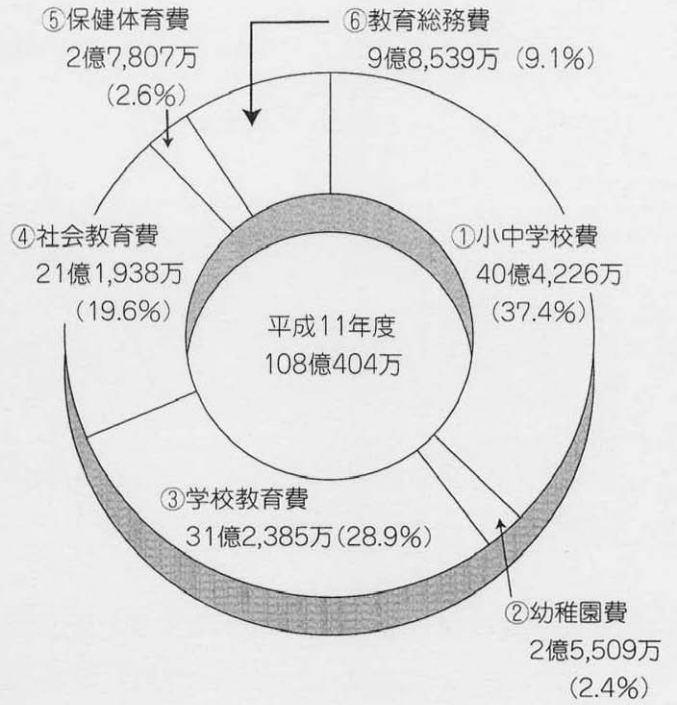


▲校舎改造一ふれあいコーナー (六ツ美北部小学校)

◆ 一般会計予算費と教育費の推移

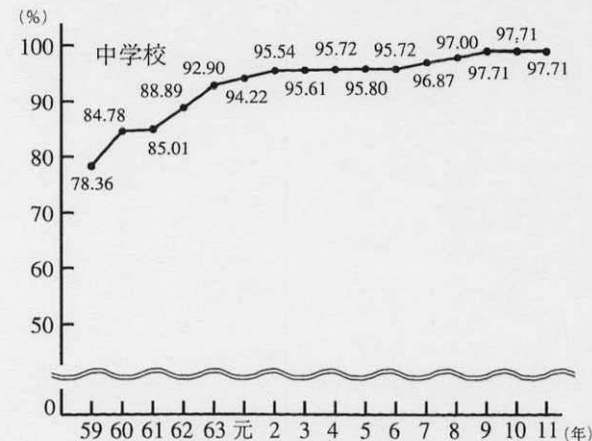
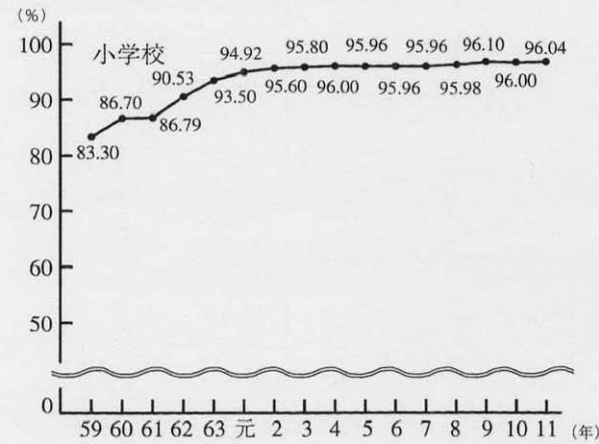


〈教育費の内訳〉



(単位 円)

◆ 校舎鉄筋化率の推移 (数字は各年5月1日現在の百分率)



◆ あらまし ◆

- ①小中学校費
 - ・校舎増改築 (福岡小学校)
 - ・校舎耐震補強 (連尺小学校, 城北中学校)
 - ・造成 (竜海中学校)
- ②幼稚園費
 - ・市立幼稚園3園管理事務費など
- ③学校教育費
 - ・行事開催事業委託及び指導研修
 - ・教育の振興, 研究助成
 - ・児童生徒の健康保持
 - ・小中学校各種スポーツ大会開催
- ④社会教育費
 - ・岡崎市民芸術文化行事開催事業
 - ・図書館の管理運営
 - ・視聴覚ライブラリーの管理運営
 - ・少年自然の家の管理運営
- ⑤保健体育費
 - ・体育振興事業
- ⑥教育総務費
 - ・私立高校授業料補助金
 - ・私立幼稚園入園料補助金
 - ・岡崎育英会学生寮運営費補助金

ふれあい

学級代表に注目

六名小学校

川口 克也

小六のA君とB君は、実に悪ふざけが多いが、憎めない二人である。

帰りの会に、良いことをしたり、反対に人に迷惑をかけたことなどを発表する時間がある。この二人の名前は、後者において常連だった。廊下ではスケートのまねをして歩行者にわざと当たったり、階段を降りている友人を押し下たり、信号無視を見つづけられたり……。悪いことをすれば、担任による個別指導が行われる。決まって、「もうしません」と言い、話し合いの結果、授業後、窓ふきをして反省をし、帰ることになる。したがって、教室の窓はいつもきれいな状態になっている。きれいな窓を見て憂うつになる担任も珍

しい。どれだけ注意をしたことだろう。

ところが、この二人、クラスのパピンチをすぐさま感じ、救ってくれる。修学旅行の班決めでもめたとき、うまくまとめたのは彼らだった。また、学芸会の劇の練習がうまくいかなかったとき、休み時間にみんなを集めて、話し合いを始めたのも彼らだった。「ここぞというときに、それを感じ、行動できる人は立派である」私は彼らをこう褒める。すると、照れることもなく、「いやあ、当然のことです」と胸を張っている。この二人が前期、後期と学級代表に選ばれた理由がよくわかった。



魔法の授業

矢作中学校

鈴木 武

先生には中学二、三年と担任していただきました。

先生の授業は黒板に書かれた証明や方程式などの問題を考えることから始まりました。理解の難しいところでは、まるで一人一人のつまずきを知っているかのように、理路整然と説明をされていきま

した。聞き終わると、いつの間にか頭の中のモヤモヤがすっかり消えているのです。先生の授業は「魔法の授業」でした。初めて教師として小学校に赴任したころ、附属小学校に勤務されていた先生からお誘いを受け、授業を見せていただいたことがあります。二年生の子供たちが、自分の考えをぶつけ合い、追究していく



であった武君には、学級づくりで多くの支援を受け、自発的で明るい雰囲気の中で指導ができました。

次には、附属小学校において「問いつける子ども」の研究を進めていたころ、名工大を卒業し、教師を志望した武君を参観に誘った時でした。子どもたちが話し合いの中で考えを深めていく様子を真剣なまなざしで観察していた姿が印象的でした。

縁あって、お邪魔していた細川小学校で、新任教師として意欲的に実践を重ね、年々力量を高めていく様子が研究論文を見てわかりました。

やがて、中学の理科教師としての活躍が認められ、他郡市での教育経験を積み重ね、幅のある人格形成ができたと思います。

教師は常に、子どもの立場になって指導することが大切であり、「地平に立って」教えることが大切だと言われています。

武君の新しい立場でのご活躍・ご発展を祈念します。

地平に立って

前甲山中学校長

深津 浩

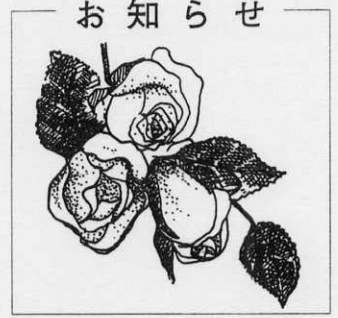
先生の偉大さをますます強く感じるこのごろです。先生、これからもずっとご示唆ください。

鈴木武君との出会いは、竜海中学校で「わかる学習指導」の研究が軌道に乗り出したころでした。「学級づくり」と「教材研究」の内、学級代表

●学校・学級の規模（市内平均）

	小学校	中学校
一校当たり 児童・生徒数	522人	655人
一校当たり 学級数	17学級	19学級
一学級当たり 児童・生徒数	31人	34人

◆小中学校のようす
平成十一年度岡崎市内の小中学校の概要がまとまった。学校や学級の数、児童生徒と教職員の数を表に示した。小中学校ともに児童生徒数は、漸減している。



●児童・生徒・教職員数

区分	学校数 (校)	学級 〈特殊〉 (学級)	児童・生徒 (人)			校長・教職員(人) (非常勤講師を含む)			養護教員 (人)	事務職員 (人)		栄養職員 (人)
			男	女	計	男	女	計	県	県	市	県
小学校	42	718〈49〉	11,114	10,792	21,906	403	636	1,039	42	42	0	6
中学校	18	344〈22〉	6,058	5,739	11,797	421	244	665	20	25	9	2
合計	60	1,062〈71〉	17,172	16,531	33,703	824	880	1,704	62	67	9	8
昨年度合計	60	1,076〈66〉	17,593	16,922	34,515	812	878	1,690	62	67	8	8

●学年別児童・生徒数(人)

小 学 校							中 学 校				
学年	男	女	計	学年	男	女	計	学年	男	女	計
1年	1,764	1,701	3,465	4年	1,827	1,789	3,616	1年	1,963	1,843	3,806
2年	1,811	1,738	3,549	5年	1,901	1,870	3,771	2年	1,983	1,934	3,917
3年	1,827	1,736	3,563	6年	1,984	1,958	3,942	3年	2,112	1,962	4,074



▲昨年度の呼和浩特使節団一行
——仲よしの像、友好之像にて

◆親善訪問使節団の派遣
岡崎市は、友好都市提携を結んでいる中国内蒙古自治区呼和浩特市（フフホト）市へ、今年も中学生を派遣する。結団式が五月七日に行われた。一行は、六月十四日から九日間の日程で、呼和浩特市内や大草原などを訪問する。スポーツ交流では、バレーボールの友好試合を行い、二十日に帰国の予定。

使節団は、次の皆さんで構成されている。
〈教員〉美川中長 河合美智代
〈生徒〉甲山中 神谷 太啓
南中 林 英理香
葵中 奥田 順之
石川 真弓
田中 友浩
水尾 良子
城北中 大山 拓也
阿知波 静
竜南中 橋本 尚樹
六ツ美北中 二村 朋恵
畔柳 亮
杉田奈緒子
牧野 好博

フォト・ヒストリー 岡崎の教育

ねずみグループ (昭和46年)

・カ
ット

北

中

杉
江
ゆ
かり

町の美化や火災予防に役立てようと、学区内のバス停に空き缶の吸い殻入れを取り付けたことがきっかけとなって始まった「ねずみグループ」。これは、よいことをねずみ算式にどんどん増やそうという生徒の親切運動で、今も城北中学校の生徒に受け継がれている。昨年度は環境庁より「地域美化功績者」として表彰された。



写真提供 城北中

静けさのなかで、黙々と街の掃除をする生徒たち。街の美化のためだけになく、自身の心をも掃き清めているに違いない。豊かな奉仕の心は、親子の共通体験として代々受け継がれ、今どれほどの広がりを見せていることが、ずしりとした伝統の重みを感じる。

シ
オ
ス
ア

酔漢による騒動や物が無くなる被害は、夜間パトロールを始めてからはほとんど無くなったと、胸を張る宇野さん。その言葉の端々からは、岡崎の名物行事である「菖蒲まつり」を学区全体で支えているんだという、強い自負が感じられた。

往古からの夢。それは人が鳥のように空を飛ぶこと。その夢をかなえるために仲間が集い語り合う。飛ぶことはいつも危険と背中合わせ。だから、甘えは許されない。新たな夢への挑戦がいつも始まっている。夢を持ち続けて生きていきたい。

朝の通勤通学に、白い服が目立つようになった。子供のころ、遠足が終わると恒例であった我が家の衣替え。樟脳臭い少し厚手の半袖服を着たとき「いよいよ夏本番」と感じたものだ。季節を感じられる行事が、今いくつ残っているだろうか。



- * 綺麗な雑学 齋藤 薫 ￥1500
講談社
- * 美しいことばの引きだし 藤久 ミネ ￥1238
PHP研究所
- * ニュースなんでも探偵団 池上 彰 ￥1200
集英社
- * 一流になる人 二流でおわる人 野村克也・米長邦雄 ￥1200
致知出版社

* 日本語練習帳 大野 晋 ￥660
岩波新書
国語学を専攻される著者は、こうした本を書こうと10年ほど前から材料を集めはじめられたという。一冊を読み終えると、文の組み立て、文章の展開、敬語の基本など、日本語の骨格を理解し技能をみがくことができる。250点の問題を解くうちに、自分の現在の日本語の技能がどれくらいなのかもわかってくる。
何の気なしに使っている言葉にも敏感になれるし、日本語の理解と表現のためにも大いに役立つ。ぜひ一読をしたい。